

拝復

やっと季節の変わり目を告げる雷が鳴り響き、梅雨明けも間近といった感じでした。

先日は、二つの質問に関するお答えをいただきました。ありがとうございました。熟読させていただきますが、承服できかねる点がありますので指摘させていただきます。

それは、前回の質問一についてのご回答「ナイロンザイル切断以前の登山・登攀に幾つかのヒューマンエラーがあったと考えられましたので、その意見を日本登山史に明記しておく必要がある」と思いますが、この度、本を上梓いたしました。」についてです。

まず、

A 「日本登山史に明記」されるためには、下記条件が満たされていなければなりません。

- ① 記載されている事柄が、出版前に全て正しく検証され、関係者の了解を得る必要がある。
- ② そのためには、憶測が事実であったかのような記述はすべきでない。

ところが、

B 本書は下記についてその条件を満たしていません。

① 直接の当事者である石原氏、澤田氏が健在であるにもかかわらず、最終証言を得ていない。

② 本書一六頁最終行「出席者：石岡あづみ」について、私は話し合いを聞いていた訳ではなく、お給仕をしていただけなので出席者ではない。

③ 本書一七頁七行目「石岡は座敷で酒宴の用意をして待っていてくれた」については、間違いである。まず居間で話をしていただき、その間に私が座敷に酒宴の用意をした。

④ 同、「高井が石岡と会う時はいつも歓待されていると聞いてはいたが：この時も同じように歓待された」についての記述は、あたかも高井氏が来訪された時にだけ歓待していたかのように受け取れる。この記載も間違いである。特に、母が亡くなってからは、父が失意の人と

なったため、来客の際には父を慰めるためもあり、どなたにも必ず酒宴の用意をして歓待した。

⑤ 私、石岡あづみが実名で記されている部分（本書六二頁、三行目「石岡は、娘の石岡あづみに、…打ち明けた」）は事実ではない。父からそのような話を聞いたことはない。

⑥ 本書の原典ともいえる二〇一一年に作成された「冊子」について、二〇一二年に「内容に誤りがある」ことを理由に「出版はしません」と石原・澤田両氏に約束したにも関わらず、今回何ら事前了解も得ずに突然出版された。また私に関する部分の前記③く⑤に関しては、その当時に間違いであることをお伝えしたにも関わらず直されず、出版されることも知らされな
いまま出版されたことは、遺憾に思うし、許されることでない。

前記A、Bからだけでも、質問一に対する湯浅様のご回答（日本登山史に明記）に納得できる者がいないのは明白でしょう。

まずは、前記A、Bの各項目について、どうしてこのような間違った記述を日本登山史に明

記しなければならぬかについて、今月中にご回答賜わりますようお願いいたします。
暑さに向かいます。お身体ご自愛下さいませ。

拝具

令和元年七月二五日

湯浅 美仁 様

石岡繁雄の志を伝える会

代表 石岡 あづみ 様